

処理施設維持管理計画

○事後調査実施計画

水質、地下水、悪臭、温室効果ガス等について定期的に調査を実施する。
実施頻度、項目等については別紙のとおり。

○施設の点検等に関する計画

1. 浸出水処理施設について
2系列の処理系統とし、浸出水量が少ない渇水期に、1系列毎に点検・補修を行う。
2. 擁壁（貯留構造物）・浸出水貯留池・防災調整池・雨水排水工の定期的点検を実施する。

○その他維持管理に関する事項

1. 埋立方法
廃棄物層 2.5m毎に 0.3mの中間覆土の実施及び 1.5mの最終覆土ならびに日毎の即日覆土の実施
2. 搬入ルート
道路事情が改善されるまでの間は、限定された地域や異常時を除き、国道1号線（蟹が坂交差点）からの経路とする。
3. 工事中の濁水防止のため、仮設沈砂池を設置
4. 多降雨時の洪水調整のため、防災調整池を設置
5. 土工事終了後は速やかに種子吹き付け等の緑化、モルタル吹き付け等により、濁水の防止を図る。
埋立終了後のヒノキの植栽
6. 搬入時の検査について
展開検査の実施、汚泥・煤塵・燃え殻・鉍さいについての成分分析検査の実施および搬入車両に識別のため車両に搬入車証を付けさせる。

水質、地下水、悪臭、温室効果ガス等に係る事後調査実施計画は表1のとおり。

また、浸出水原水・下水道投入水の調査項目・調査頻度については表2、地下水の調査項目・調査頻度については表3のとおり。

表1 水質、地下水、悪臭、温室効果ガス等の事後調査実施計画

	環境要素	調査内容	調査範囲・地点	項目・時期・頻度
工事中	水質	河川水質 (次郎九郎川)	St. 4、5、9の3地点	pH、SS、流量の3項目を 1回/月
	地下水	地下水水質濃度、地下水位	事業実施区域最下流部、漏水の影響を受けない地点の2地点	表3に示す水質項目及び頻度(1回/月、1回/年)、地下水位は1回/月
供用時	水質	浸出水処理施設の原水及び下水道投入水水質	浸出水処理施設の ・原水モニタリング槽 ・処理水モニタリング槽 の2地点	表2に示す水質項目及び頻度
		河川水質 (次郎九郎川)	St. 4、St. 5、St. 9、St. 12 の4地点	pH、BOD、COD、SS、D ₀ 、大腸菌群数、T-N、T-P、流量の9項目を 1回/月
	地下水	地下水水質濃度、地下水位	地下水(地下水集排水管の出口、事業実施区域最下流部、漏水の影響を受けない地点)の計3地点	表3に示す水質項目及び頻度、地下水位は1回/月
	悪臭	①特定悪臭物質濃度	敷地境界1地点及び 発生ガス抜き管1ヶ所	①特定悪臭物質 22項目、②臭気指数、③発生ガスを、夏季に1回/年
		②臭気指数		
③発生ガス量(ガス抜き管のみ)				
温室効果ガス等	①ガス濃度 ②発生ガス量	発生ガス抜き管1ヶ所	①メタン、二酸化炭素、酸素、一酸化炭素、亜酸化窒素の4項目、②発生ガスを、夏季に1回/年	

表2 浸出水原水、下水道投入水の調査項目と調査頻度

項目	頻度				項目	頻度					
	1回/月	4回/年	2回/年	1回/年		1回/月	4回/年	2回/年	1回/年		
生活環境項目等	pH	○				健康項目	カドミウム		○		
	BOD	○					全シアン		○		
	COD	○					有機リン		○		
	SS	○					鉛		○		
	n-ヘキサン抽出物質	○					六価クロム		○		
	(鉱物油)	○					砒素		○		
	(動植物油)	○					総水銀		○		
	フェノール類			○			アルキル水銀		(○)		
	銅			○			PCB		○		
	亜鉛			○			トリクロロエチレン		○		
	鉄(溶解性)			○			テトラクロロエチレン		○		
	マンガン(溶解性)			○			1,1,1-トリクロロエタン		○		
	全クロム			○			ジクロロメタン				○
	大腸菌群数	○					四塩化炭素				○
	全窒素	○					1,2-ジクロロエタン				○
	全リン	○					1,1-ジクロロエチレン				○
	アンモニア性窒素	○					シス-1,2-ジクロロエチレン				○
	亜硝酸性窒素	○					1,1,2-トリクロロエタン				○
	硝酸性窒素	○					1,3-ジクロロプロペン				○
	カルバール窒素	○					チウラム				○
	アンチモン(Sb)			○			シマジン				○
	ニッケル			○			チオベンカルブ				○
	電気伝導率	○					ベンゼン				○
	塩化物イオン	○					セレン				○
温度	○				ふっ素			○			
沃素消費量	○				ほう素			○			
その他(色及び臭い)	○				ダイオキシン類				○		

(注) アルキル水銀は、総水銀が検出された時のみ分析を行う。

表3 地下水の調査項目と調査頻度

項目	頻度		項目	頻度	
	1回/月	1回/年		1回/月	1回/年
電気伝導率	○		1,1-ジクロロエチレン		○
塩化物イオン	○		シス-1,2-ジクロロエチレン		○
カドミウム		○	1,1,1-トリクロロエタン		○
全シアン		○	1,1,2-トリクロロエタン		○
鉛		○	1,3-ジクロロプロペン		○
六価クロム		○	チウラム		○
砒素		○	シマジン		○
総水銀		○	チオベンカルブ		○
アルキル水銀		(○)	ベンゼン		○
PCB		○	セレン		○
トリクロロエチレン		○	硝酸性窒素		○
テトラクロロエチレン		○	亜硝酸性窒素		○
ジクロロメタン		○	ふっ素		○
四塩化炭素		○	ほう素		○
1,2-ジクロロエタン		○	ダイオキシン類		○

(注) アルキル水銀は、総水銀が検出された時のみ分析を行う。